

る瑞相とか聞をけるもしく、目を経つ、世中うき立て、人のこゝろもおさまらず、民の愁つむにむなしからざりければ、同年の冬、なほ此京にかへり給ひにき。されどこぼちわたせりし家どもはいかになりけるにか、ことぐくもとの様にしもつくらす。

〔太平記十八〕先帝潛幸芳野事

刑部大輔景繁武家ノ許ヲ得テ、只一人伺候シタリケルガ、勾當内侍ヲ以テ潛ニ奏聞申ケルハ、○中略急ギ近日ノ間ニ、夜ニ紛レテ大和ノ方ヘ臨幸成候テ、吉野十津川ノ邊ニ皇居ヲ被定、諸國ヘ綸旨ヲ被成下、義貞ガ忠心ヲモ助ラレ、皇統ノ聖化ヲ被耀候ヘカシト委細ニゾ申入タリケル、○中略雲霞ノ勢ヲ腰輿ノ前後ニ圍マセテ、無程吉野ヘ臨幸ナル、○下略

〔太平記二十六〕賀名生皇居事

貞和五年正月五日、○中吉野ノ主上ハ、天ノ河ノ奥賀名生ト云所ニ、僅ナル黒木ノ御所ヲ造リテ御座アレバ、彼唐堯虞舜ノ古ヘ、茅茨不剪、柴椽不削、淳素ノ風モ角ヤト思知レテ、誠ナル方モ有ナガラ、女院皇后ハ柴葺庵ノアヤシキニ、軒漏雨ヲ禦ギカネ、御袖ノ涙ホス隙ナク、月卿雲客ハ木ノ下岩ノ陰ニ、松葉ヲ葺カケ、苔ノ筵ヲ片敷テ、身ヲ措ク宿トシ給ヘバ、高峯ノ嵐吹落テ、夜ノ衣ヲ返セドモ、露ノ手枕寒ケレバ、昔ヲ見ズル夢モナシ、○下略

〔嘉永明治年間錄十七〕慶應四年元明治九月

東京ニ行幸ノ御達 東京行幸御出輦來る廿日御治定之事

十月

御著輦奉迎道筋等ノ達

御著輦御當日奉迎場所 議定以下三等官以上、坂下御門外北側、四等五等官和田倉御門外北側、無役諸侯、坂下御門外南側、但當日不及登城、翌日巳ノ刻登城可、伺天機且供奉の外、兵